



UIFA ニュース

発行 宇治市国際親善協会

事務局 〒611-8501 宇治市宇治琵琶33 宇治市役所秘書広報課内
 電話 0774-22-3141(内線2058) FAX 20-8776
 Eメール hishokohoka@city.uji.kyoto.jp ホームページ <http://uifa.news.coocan.jp>

第 86 号
 令和元年(2019年)12月

カムループス市公式訪問団来宇

2019年10月8日▶11日

宇治市の友好都市カナダ・カムループス市から、ケン・クリスチャン市長を団長とする公式訪問団 18 人が、10月8日(火)から11日(金)までの日程で来訪されました。

クリスチャン市長は前は議員としての参加でしたが、今回は市長就任以来初となり、ご夫人とお嬢様と共に来訪されました。また、実務上の最高責任者である、デイヴィッド・トラウィン行政事務長官も前回に引き続き参加されました。さらに、両市の友好都市盟約締結は今年で 29 周年、来年度は 30 周年を迎えることとなります。

訪問団一行は、宇治市役所や市内各公共施設や京都市内を視察されました。

南部小学校では、児童によるダンスや英語学習の見学、給食を楽しみ、消防署では、消防車や署内の各設備や訓練の様子を、カムループス市の消防団との比較をしながら興味深く視察されていました。さらに、宇治市国際親善協会、宇治国際交流クラブ共催の「市民交流歓迎会」では多くの市民の方々とお茶席や生け花、書道などの日本の文化を体験していただきながら交流し友好を深めていただきました。そして、恒例となった日本家庭の雰囲気味わっていただく「ホームビジット」では、平成 28 年度のカムループス市公式訪問団の参加者や市民の皆さんの自宅に歓迎していただき、訪問団の皆さんには、さらに深く宇治市の魅力を堪能していただくことができました。



市役所ロビーにて歓迎式典



公式晩さん会



平等院にて



金閣寺にて



市民交流歓迎会



南部小学校にて児童たちと交流



西消防署を視察

カムルーフス市公式訪問団ホームビジット

今回は10月10日にホストファミリーの皆様がカムルーフ市訪問団の皆様をご家庭の夕食にお招きしていただきホームビジットで、3時間あまり交流していただきました。



今回はとても短い滞在でしたが、色々なお話ができてとても楽しい時間を過ごす事ができました。

宇治市の人口数についてや、病院にかかる際の支払いや保険制度について質問を受け、さすがだなと思ったのと同時に、普通に生活しては出会う事のなかった方たちとお話でき、とても良い経験になりました。

食事の前後には、子どもたちともレゴでのごっこ遊びやカードゲームなど、楽しく遊んで頂きました。

大きなお子さんが3人おられるご夫婦だったので、子育てについてもご理解があり、とても気持ち良く過ごさせて頂きました。(T.)

今回はキャサリンさんとタリンさんが我が家に来てくれました！

ご飯作りを手伝ってくださったり、食べた後の食器をキッチンまで持って来てくれました。(^^) とても明るくてフレンドリーで素敵な2人だったので、楽しい時間を過ごさせてもらいました。(^^) また、会いたいと思いました。(Y.)



市役所職員の Colleen & Shannon の仲の良いお二人に来ていただきました。Colleen に会うのは2度目で、私のことをよく覚えて下さっていて、とても嬉しかったです。

小学3年生の息子のウェルカムダンスを優しい眼差しでみていただいたあと、用意した食事をどれも美味しいと喜んで召し上がって下さいました。

話題が尽きず話が盛り上がり、あっという間のひとときでした。楽しい時間をありがとうございました。(I.)

カムループス市からのお客様を我が家で迎えて

国際親善協会理事 川野 智

私の家では、昔から外国からのお客様をお招きして、おもてなしをしてきました。今回、カムループス市からの公式訪問団が宇治市を訪問された機会に家庭料理によるおもてなしをさせていただくことになりました。

ホームビジットでお迎えしたのは、市の実務上の最高責任者である、デイヴィッド・トラウイン行政事務長官、ケネス・ギリス氏と奥様であるリンダ・ブラウン氏の3人です。

そして、友人である宇治市国際親善協会副会長の矢野氏と宇治市教育委員会指導主事の伊藤氏もお迎えしました。

来宅されて、最初にカナダと我が国の両国の国歌を厳かな雰囲気の中で斉唱し、お互いの国を讃え合いました。

続いて、妻、容子によるマリンバの演奏を披露させていただきました。曲目は、荒城の月とラデッキー行進曲で、皆さん、マリンバという楽器を初めて見て、聴かれたとのことで、しきりに関心をされ、大きな拍手をいただきました。



ディナーはシャンパンの乾杯から始まり、妻の手料理をワイン、日本酒などと共に楽しんでいただきました。

料理は、和風の中にも洋風を取り入れた内容で、お皿に盛らずに重箱を展開する形としました。ディビッド氏からは、重箱に盛られた料理を見て、日本の料理はとても美しく、美味しいと心からのお褒めのことを頂戴いたしました。

ワインがすすむうちに、両市や日本の国のことなどについての話題で盛り上がってきましたが、特にディビッド氏から「日本は戦後わずか70年ほどでどうやって世界トップクラスの経済大国になれたのか？」との、さすが行政事務長官らしい話題になってきました。英語の堪能な伊藤氏の通訳で、「物づくり」への国民の意識の高さであり、日本人としての誇りがあるからです。」など、日常会話を超えた中身の深い会話を全員で楽しむことができました。

ディナー終了時には、皆さん、大満足したとの言葉を頂戴し、これから更に両市の友好を深めることを確かめて楽しい一時を終えることができました。

今回お迎えした、カムループス市からのお客様は、とても上品で素敵な方ばかりでした。これからも宇治市とカムループス市の友好がますます深まることを期待しております。



「出会いの場所、カムループス」

カムループス市・トンプソンリバーズ大学 令和元年度市民留学生 玉井 夕貴

今年の5月から市民留学生としてカムループス市のトンプソンリバーズ大学で、充実した留学生活を送っています。カムループス市は、沢山の自然に囲まれた街で、大学のキャンパス内では鹿やリスを見かけることは珍しいことではありません。市内には自然公園、動物園、競技場、美術館など自然も豊かで、アミューズメント施設も充実しています。気候は、ワインの元となるブドウを育てるのに適しており、市内から少し離れるとワイナリーに行くこともできます。カムループスの人々の休日の過ごし方は、キャンプ、カヤッキングなどアウトドアが一般的であり、私のホストファミリーは毎週末、滝の名所、スキー場、鮭の産卵を見られる場所等、カムループスの自然豊かな場所に連れて行ってくれます。ホームステイ先のルームメイトは、中国から来た学生で、毎日夕食を共にし、一緒に勉強したりお互いの言語や文化を教え合ったりと、とても良い関係を築いています。



日本とカナダの一つの大きな違いを挙げるとすると文化の多様性です。例えばバスに乗ると聞こえてくる言語は英語、中国語、スペイン語、ポルトガル語など様々であり、服装も国の伝統衣装を身にまとっている人が多く見かけられます。トンプソンリバーズ大学の約30パーセントは海外から来た学生で、世界100か国以上から学びに来ています。そんな環境の中でクラスメイトは同じ国出身が珍しく、異文化交流を日々肌で感じています。現在私は、トンプソンリバーズ大学で異文化研究チームに属しており、異文化とどう接していくか、文化の違いをどう認め共生していくかを勉強中です。このダイバーシティな環境下での異文化共生の学びは、将来日本という国家を形成していく世代にとって大変意義のあることだと考えています。

大学生生活は、勉強とボランティア活動でとても充実しています。ある授業では、故郷の文化を紹介するという課題があり、宇治茶と茶道についてクラスで発表しました。また、カナダはボランティア活動を学生のうちから強く進めている国なので、大学内でもボランティア活動の機会が沢山あります。現在は、週に1回1時間、ラジオの担当をするというボランティアをしております。1時間の持ち時間の中で、日本以外の国から来た友人達をゲストとして呼び、文化の違いについて英語で語るトークを行っています。

この友好都市留学は、私の異文化に対する理解力を促進させ、視野を広げ、何事にもチャレンジする勇気を与えてくれました。この留学に興味を持っている方は、是非応募して下さい。この留学はあなたの価値観を広げ、かけがえのない人生の思い出となる事でしょう。

カムループスとは、2つの川が出会う場所という先住民の言葉です。カムループスという土地は私に沢山の素晴らしい出会いを与えてくれました。



これから宇治市民代表としてカムループスの人々との交流を深めたいと思っております。私にこのような素晴らしい機会を与えて頂きましたことに感謝しております。

市長ご夫妻をお招きするというサプライズ。

雑観雑感

車中、初対面にもかかわらず、なぜか何度も出会った感じで話を切り出す。市長は随分背が高いですね。それに顔の艶が50代に見えますよ、と。『これもメープル・シロップのおかげですよ』ショウジさん、あなたもお若く見えますね。それは秘密ですが『宇治茶を毎日のんでいますよ』と話のキャッチボールが続く。

我が家では、娘が市長ご夫妻に抹茶を立てオモテナシをするが今日はこれで5杯目とか。失礼しました。

ワイフが卓上フライヤーで串カツを揚げながら、私が20年前山本現市長とカムループスに行った思い出話に花が咲き、どんどん時間が過ぎ去ってしまった。加えてバンクーバー冬季五輪、カナダ出身の歌姫セリーヌ・ディオンの近況、ケベックが拠点のシルク・ド・ソレイユの活動、カナダの映画制作等、話題が尽きない。

夜の帳が降りる頃、市長から日本もこの所、災害が多い事に心を痛めている。同じようにカムループス市も山火事が多く苦慮しているとの事だった。将来、宇治市と消防士の交換留学などがあれば知識の共有ができそうだと熱っぽく話してくれた。

ケン市長、ブレンダ夫人そして通訳の木村さん、有難うございました。楽しく愉快地に過ごせました。

(S・T)